

英 語

1 科目編成

改 訂	現 行
<p style="text-align: center;">総 合 英 語 (標準単位数)</p> <p style="text-align: center;">英 語 理 解</p> <p style="text-align: center;">英 語 表 現</p> <p style="text-align: center;">異 文 化 理 解</p> <p style="text-align: center;">生 活 英 語</p> <p style="text-align: center;">時 事 英 語</p> <p style="text-align: center;">コンピュータ・LL演習</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">設置者の定 めるところに よるものと する。</p> </div>	<p style="text-align: center;">総 合 英 語 (標準単位数)</p> <p style="text-align: center;">英 語 理 解</p> <p style="text-align: center;">英 語 表 現</p> <p style="text-align: center;">外 国 事 情</p> <p style="text-align: center;">英 語 一 般</p> <p style="text-align: center;">時 事 英 語</p> <p style="text-align: center;">L L 演 習</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">設置者の定 めるところに よるものと する。</p> </div>
<p>英語に関する 学校設定科目</p>	<p>英語に関する その他の科目</p>

2 改訂の基本方針

- (1) 国際化に対応して、実践的コミュニケーション能力の育成を主たる目標とする。
- (2) 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を重視する。
- (3) 各科目における学習内容を、現代の生徒や学校の実態に合うように改めるとともに、生徒の多様化する資質・能力や興味・関心に応じられる教育課程の編成が可能となるようにする。

3 改訂の内容

(1) 目 標

「英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。」とした。この目標は、普通教育の外国語科の目標を英語（専門教科）に置き換えたものである。ここでも、実践的コミュニケーション能力の育成が中心的な目標となっている。

(2) 各科目

〈総合英語〉

目標を「情報や相手の意向などを理解し、情報や考えなどを英語で伝える能力を伸ばすとともに、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。」とした。内容に関しては現行と変更なし。原則として、すべての生徒に履修させること。

〈英語理解〉

目標を「英語を通して情報や相手の意向などを理解する能力を一層伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。」とした。内容として「速読」を新たに加えた。

〈英語表現〉

目標を「英語で情報や考えなどを伝える能力を一層伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。」とした。内容としては、新たに「手紙・日記」を加えるとともに、「演劇」を「スキット・劇」とし、「創作」を削除した。

〈異文化理解〉

現行では「外国事情」であるが、実践的コミュニケーション能力とより密接な関連をもった科目へと変えた。それを踏まえ、目標を「英語を通して、外国の事情や異文化について理解を深めるとともに、異なる文化をもつ人々と積極的にコミュニケーションを図るための能力や態度の基礎を養う。」とした。内容としては、現行の「その他の外国事情に関すること」を「その他の異文化理解に関すること」に変えた。原則として、すべての生徒に履修させること。

〈生活英語〉

現行では「英語一般」であるが、科目の性格を一層明らかにするため「生活英語」に改めた。それを踏まえ、目標を「日常生活に役立つ英語の基礎的な知識を習得し、それを活用する能力を育てる。」とした。内容としては、「情報通信ネットワークなどの活用」を加えた。

〈時事英語〉

目標を「新聞、放送、情報通信ネットワークなどに用いられる英語を理解するとともに、それを活用する基礎的な能力を養う。」とした。内容としては、現行より具体的に示すとともに、「情報通信ネットワークを通じた情報の理解」を加えた。

〈コンピュータ・LL演習〉

目標を「コンピュータやLLなどを利用することにより、理解力や表現力を高めながら、英語の総合的な運用能力の向上を図る。」とした。